



競泳プール施設最前線 特別対談 鈴木大地×笠原一也（JISSセンター長）

泳者の領域 - トップスイマーと戦いの場 -

Relay Talk vol.12 水夢人 上野 広治

新しいプールはスポーツフィールド



BEFORE



AFTER



▶可動床下部

シーズンオフにも活躍する
新たなプールの可能性

地域の人々に長く愛されたプール施設は老朽化や維持管理費が問題になります。それら問題の解決と、夏以外のオールシーズンにも有効利用できるスポーツフィールドに。ヤマハFRPプールならではの工法がより魅力的なプールへと蘇らせます。美しさ、安全性、耐久性の向上はもちろん可動床システムを採用し、オフシーズンにはフロアをプールサイドと同じ高さにして、人工芝のフットサル場に変身。積み重ねてきた実績と、その中で培われた信頼。利用者の願いをかなえるプラスアルファの技術はここに来るみんなを笑顔にさせる力です。



アクアフィールド芝公園
東京都港区

Information

プールサイズ：50m×18m
8コース
水深：0～1.35m
フットサル場：3面

営業所のご案内 プールのことならお気軽に

ヤマハ発動機株式会社 プール事業部 TEL 053-594-6512 〒431-0302 静岡県浜名郡新居町新居3078

北海道販売課 TEL 011-200-2381
〒060-0001 北海道札幌市中央区北一条西2-9 オーク札幌ビル7F

中部営業所 TEL 052-209-6676
〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦1-18-11 第18KTビル2F

東北販売課 TEL 022-301-7102
〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台ビル5F

関西営業所 TEL 06-6268-0520
〒541-0052 大阪府大阪市中央区安土町3-4-16 船場オーセンビル4F

東京営業所 TEL 03-3454-2434
〒108-0023 東京都港区芝浦3-5-39 田町イーストウィングビル3F

九州営業所 TEL 092-472-7815
〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東2-6-1 九勤筑紫通ビル3F

<http://www.yamaha-motor.jp/pool/>



アクアビクスで世界一 みんなで掴んだギネス記録

2006年のオープン以来、地域の人々の健康増進を担う「尼崎スポーツの森」(兵庫県尼崎市)。2008年6月1日創業2周年の記念イベントで、世界一を目指す「アクアビクス参加人数最多記録」に挑戦しました。

当日は、地元住民を中心とした施設会員に呼びかけその家族や友だちなど、男女265人が集まりました。関西屈指の50メートルプールでは、約40分間アクアビクスで16歳以上の人々が汗を流しました。これにより、2005年11月14日にノルウェーでギネス記録が樹立された247人を上回り、10月にギネス・ワールド・レコーズ社にて世界記録に正式認定されました。

みんなの力を結集し世界記録に挑戦したこの日は、オリンピックの金メダルとはまた違う喜びときらめきがプールから生まれた瞬間でした。



尼崎スポーツの森「ギネス認定証」

2008年、日本競泳の歴史に、また新たな1ページが刻まれた。日本スポーツ界全体を見ても、21世紀に確実な成長と進歩を見せ、我々に『夢』を与えてくれている競技が水泳であるといえるだろう。

北京オリンピックの表彰台でほころぶ笑顔、そしてレース後インタビューで連覇の安堵から言葉が詰まらせたあの瞳。選手の努力とスタッフのサポート。その環境としてのプール。

北京大会開催にさかのぼること半年、東京北区にオープンしたナショナルトレーニングセンター。国内トップアスリート専用のスポーツ施設として計画されたこの施設の役割について、鈴木大地氏とともに検証したい。



泳者の

トップスイマーと戦いの場

競泳プール施設最前線

領域



- 2 特集1：競泳プール施設最前線
泳者の領域 —トップスイマーと戦いの場—
- 5 特集1：競泳プール施設最前線
対談／鈴木大地×笠原一也 JISSセンター長
- 9 特集2：プール事例紹介
国内公認プール・私立学校競泳プール事例紹介
- 11 YAMAHA INFORMATION
- 13 水中運動核心論 Presented by 宮下充正
- 14 水夢人／日本水泳連盟 常務理事 上野広治氏

アジア圏での新世紀五輪 北京オリンピック

日本、韓国についてアジア圏で3回目の大会となった北京オリンピック。競泳競技は25の世界新記録、マイケル・フェルプスの史上初の8冠など、競泳全体が世界大会として過去にない盛り上がりを見せた。

北島康介選手の閉会式騎手に象徴されるように、競泳日本チームの活躍は昨年の夏、日本にさわやかな感動を運んだ。

アテネから4年の歳月を経て、再び2冠を手にした北島選手を、欧米のメディアも「史上最も偉大な平泳ぎ選手」と報じ、その偉業に惜しみない賞賛を贈った。北島選手の活躍は、競泳日本チ

ームの心の支えとして選手たちを奮い立たせ、チームの士気を高めた点でも重要なものとなった。

この北京大会は、大会前に日本国内でも注目された高速水着や、高速プールと称された会場の国家水泳センター（愛称：水立方）など、選手の能力以外にもさまざまな話題を集めたことも特徴かも知れない。

まさに、今までのどのオリンピックとも違う、この時代そして中国という国ならではのオリンピック、それが北京オリンピックだったといえるだろう。

4年に一度開年（うるうどし）に開かれる、伝統あるスポーツ競技大会・オリンピックは、選手一人ひとりの戦いと同時に、国と国の戦いの場でもある。

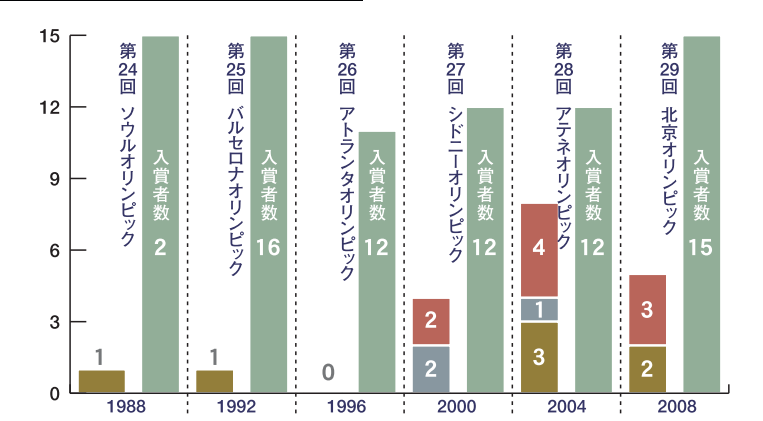
それをこの大会で感じさせたのは、ホスト国・中国の姿勢だった。獲得した金メダルの数51。銀、銅を合わせ実に100ものメダルを自らの胸に飾った。

総数こそアメリカに10個及ばなかったものの、4年前のアテネでのメダルが63であるから、全体で実に約4割増し。金メダルだけでも19個を奪取したこととなる。

競泳日本チームは、金メダル2と銅メダル3、入賞15という結果を残した。アテネ大会のメダル数8、入賞12と比較すると、アテネとほぼ同じ種目内容とする中で、2000年頃から、確実に成績が上昇していること、そして着実にレベルアップが図られ、成長していることもうかがえる。

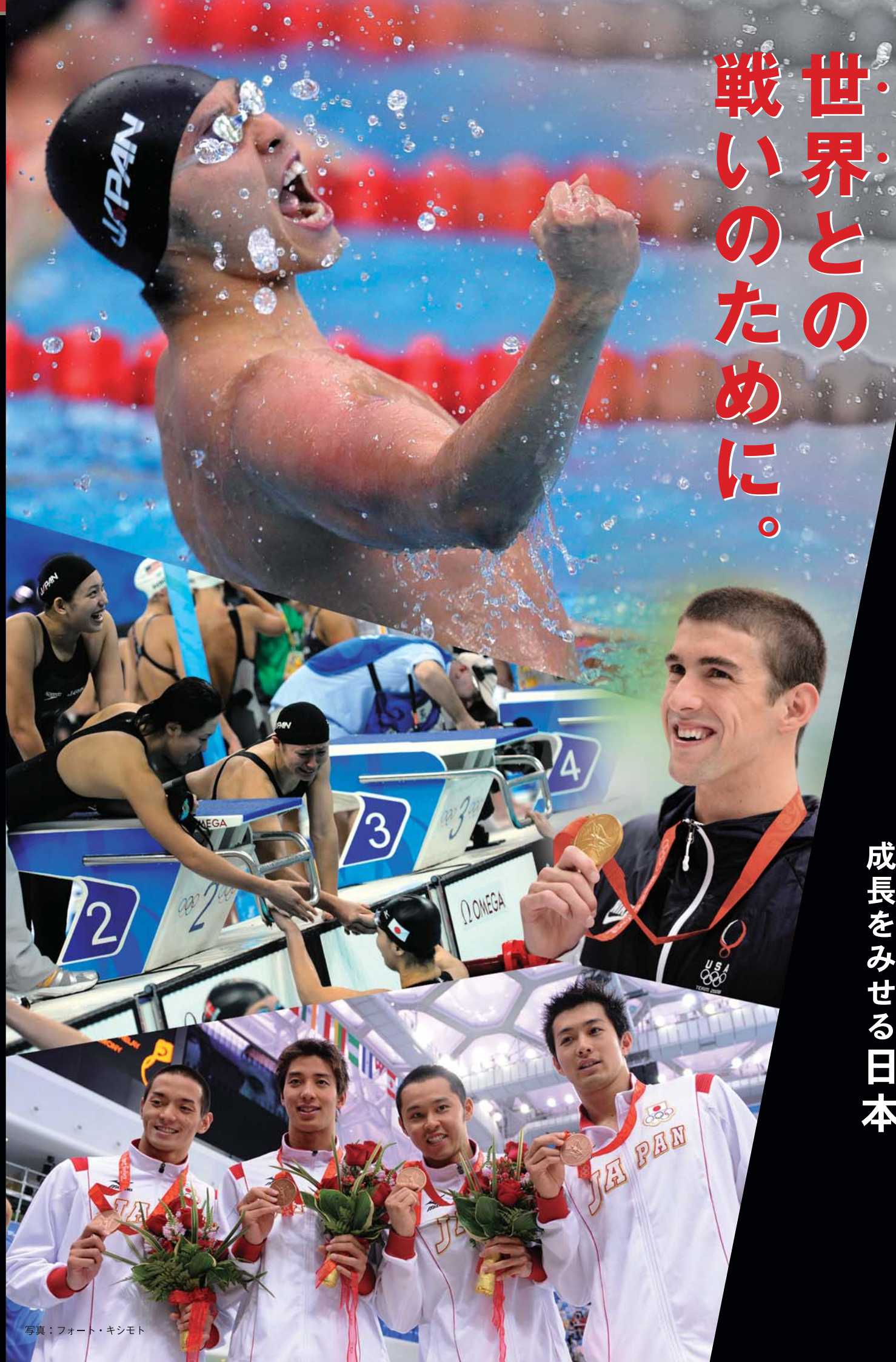
オリンピックごとに 成長をみせる日本

競泳 オリンピック結果



※2008年12月1日現在

世界との 戦いのために。



写真：フォート・キシモト

もうひとつの国内の中枢、NTC

1964年の東京オリンピック以来、国際競技力の向上と選手のコンディショニング管理、的確なトレーニングを図る施設の必要性が叫ばれてきた。その名称から受けるダイレクトなイメージが強い「ナショナルトレーニングセンター」。この施設は、時代の中で常にその重要性が検討されるものの、いざつくるとなると、実に高度な技術と微細な検証が膨大に必要となり、思うように進められなかったと聞く。昨年1月にオープンし

たナショナルトレーニングセンターは、国立スポーツ科学センターの西隣に建設された、地下1階、地上3階の施設。3階建てとはいえ、1階ずつの高さは通常施設の3階分に匹敵するため、3階フロアは隣に並ぶJISSの7階部分を楽に上回る高さとなる。屋内トレーニングセンターとして、国際競技のルールに対応し、競技ごとの専用の練習場、テクニカルルームなど、全ての競技団体が利用できる共用施設からなる。建物は、南に延びた連絡通路から合宿用宿泊施設「アスリートヴィレッジ」に接続し、JISSとともにまさに三位

一体のスポーツトレーニングを可能としている。



西が丘サッカー場側からのJISS (写真左) NTC (写真右) の様子



敷地内及び周辺関連施設

日本独自の新たな 技や技術が開花する レベルを目指します

**全体的にレベルアップした
世界との戦いになった北京**

鈴木大地(以下大地) まず最初に、昨年8月の北京オリンピックについて日本の活躍はどのように感じていらっしゃいますか？

笠原一也(以下笠原) 北京オリンピック日本チームの具体的な目標としては、全競技で金メダル2桁、メダル総数30個という数を掲げていました。実際には金メダルが9個、メダルの総数が25個という結果をみると、私は厳しい大会だったな、と感じています。(このインタビュー後、室伏選手の銅メダルが確定)

大地 もう少し良い手ごたえかと思いました。がその「厳しさ」とは具体的にどんなことでしょうか。

笠原 世界全体でレベルアップが感じられた、それが日本にとって厳しいものとなったかと感じますね。

大地 独立行政法人日本スポーツ振興センターのこれまでの活動を考えますと、2004年のアテネの好成績には、2001年国立スポーツ科学センター(JISS)が誕生したことがあろうと思うのですが。

笠原 もちろんそれもありますが、アテネの好成績はシドニーでの反省があったからだと思います。それらの課題をJISSでさらに

全競技選手の活用を目指した NNTCプール

大地 NNTCの施設を見学させていただき、どの競技施設も大変すばらしいと感じました。

笠原 JISSとNNTCは目的がはっきりし



研究してということの結果でしょう。各競技関係者も世論もJISSに対して期待をしてくれていたと思いますが、北京は一応の成績ではと思っています。

大地 アテネでメダルを獲得した国が70数カ国だったのが、北京では80数カ国と増え、これまでその競技であまり強いイメージが無かった国も活躍しました。

笠原 単純なことですが、そうしたメダルを獲得した国の増加も、世界水準のアップの要因となったと思います。

**NNTCの「トレーニング」と
JISSの「医科学サポート」、そして「チーム・ジャパ
ン」としての一体感**

大地 ナショナルトレーニングセンター(NNTC)のオープンも北京にぎりぎり間に合いました。大会まではかなり短い期間ではありましたが。

笠原 当初の計画では北京に間に合わなかったのですが、スポーツ関係者が当時の小泉総理に直接話す機会があったこれに应运えていただき、スケジュールを繰り上げてこのタイミングにオープンすることができました。こ

ている分、各競技ごとに専門的なトレーニング施設になったといえます。

大地 競泳はどうでしょうか。

笠原 競泳のトレーニングは、JISS内の50メートルプールで行っています。NNTCの25メートルプールは水泳種目専用では無く、全競技選手がリラクゼーションや基礎トレーニング、疲労回復、リハビリなどで使えるような目的で設置しています。

大地 確かにそれはプールを見ただけでも感じられますね。他競技の選手も使いやすそうです。

笠原 しかし使用状況を見ると、まだ他競技の選手が積極的に使っているというわけではありません。プールを使うのに慣れていない、あるいは水着がいやだという理由もあるようです。

大地 そういった意味でも「まだまだ」ということでしょうか？

笠原 そうですね。「プールを使うのに慣れていない」というのは言い換えると「コンディショニングを上げるためにプールをどうやって使うかがまだ見えていない」ということでしょう。



PROFILE
笠原一也(かさはらかずや)1938年 埼玉県生まれ
国立スポーツ科学センター センター長
兼 ナショナルトレーニングセンター 施設長
和歌山県保健体育課長、文部省競技スポーツ課長、
JOC事務局長、東京女子体育大学教授などを歴任し、
2005年より現職に就任。中央教育審議会分科会
臨時委員、日本水泳連盟参与も務める

うしたことで北京では新しい競技での好成績も生まれました。

大地 フェンシングの太田選手とか。

笠原 そうですね。太田選手はJISSが中心でしたが、こうした成果にはNNTCの存在も関係していると思います。

大地 そのNNTCの役割とはどういったことなるのでしょうか？

笠原 ひとこと言いますと、その名の通り、「トレーニングの拠点」ですね。これに対し、JISSは「医科学サポートの拠点」です。このふたつを一体感をもって取り組むことで成果があがるということですね。さらにいえば、NNTC内での練習は「チーム・ジャパ」としての一体感も生まれますね。

他の競技の選手と同じ施設内で活動することで、時には競技の枠を越えてコミュニケーションをはかれ、それらの情報や知識を柔軟に多様なトレーニングに活かすことができます。

こうした他の種目の選手との交流、そしてそこから生まれる一体感を我々は「チーム・ジャパ」と呼んでいます。

対談

JISSセンター長

笠原一也

KAZUYA KASAHARA

DAICHI SUZUKI
鈴木大地

科学的な新技術を「チーム・ジャパ」の強さに

大地 ある意味では、今後プールの活用は増えていくということでしょうか？

笠原 そうなるでしょう。プールに限らず、競技団体によってNNTCの使用頻度には温度差がある状況と言えます。この点でいえば、日本は競技団体ごと施設への考え方やトレーニングの方法が違います。中国や韓国は国そのものが牽引するので、そうした各競技ごとの意識のズレは少ないと言えるのではないでしょうか。

大地 その競技団体ごとの温度差を、なるべく早く同じレベルにしたいですね。

笠原 「サポートサービス」や「チェックサービス」などはやはり現時点では「支援」でしかないわけですし、我々も支援する立場ではないわけですね。しかし、今後は科学的根拠に基づいた新しい技術、例えば新泳法など選手ではなく我々が見つけることも可能になったとも言えるかも知れませんね。

大地 NNTCを訪



大地 まさに国際競技力向上を選手同士と研究者・指導者の視点からトータルに支えることができますね。気持ちの面でもこうした交流は心強いですね。

笠原 北京の成果をもっと具体的にいえば、25個のメダル全てに対しJISSが関わることでできたこと、そしてアテネに続いて金メダルを獲得する選手が多かったこと、女性選手の活躍が目立ったことなどが挙げられます。

大地 東京オリンピック当時から必要性が叫ばれたこの施設が、NNTCのオープンにより本格的に動き出したといえると思いますが、当時の課題はなんでしょう。

笠原 「強くなるためにはどうするか」ということが挙げられます。これは日本のスポーツ関係者共通の課題であるともいえます。

大地 それはNNTCとJISS共通のテーマであるともいえますね。

れる各種目の選手がみんな水着を持ってくるような意識が生まれてくれるといいですね。

笠原 NNTCが誕生したことで、この地区のみならず、その関心を持っていただけるようになりうれしく感じています。多くのみなさんに国際競技に対する認識を深めていただき、NNTCで「チーム・ジャパ」としての一体感が醸成され、「強さ」に活かしていければと思います。その環境として、NNTCのプールもいろいろな選手が集まり使える場所になるようこれからも努力したいと思っています。

大地 本日は、大変貴重なお話をありがとうございました。



次世代の才能を 発見し、伸ばす場にな ってほしいですね

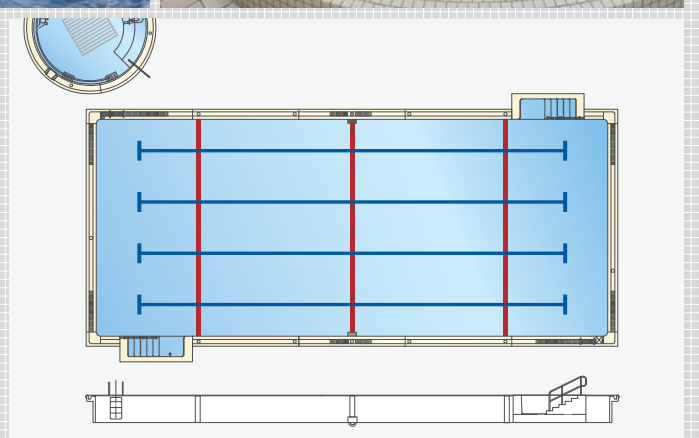




BGMが流れる競技者同士の コミュニケーションとリラクゼーションの場 ナショナルトレーニングセンター

【所在地】東京都北区西が丘
2008年1月21日開所

POOL INFORMATION
 □サイズ:25m×10.6m / 4コース (2.5m幅) □水深:1.3m □容量:344.5m³ □材質:FRP
 □ジャグジー・人工炭酸泉浴槽併設



**オリンピックへの意識づけに
重要な場所**
 北京五輪日本競泳チーム監督
 上野広治氏のコメント
 日本競泳選手はJISS開設当初から積極的に利用させていただいています。北島康介選手は地元と言うこともあって、かなり通っていますね。
 NTCはトレーニング技術ももちろんですが、「チーム・ジャパン」の交流を通じ、「オリンピックの意識づけ」ができる国内唯一の重要な場所だと思います。
※上野氏インタビューを14ページに掲載しています

〈国立スポーツ科学センター〉 JISSとの連携協力

ナショナルトレーニングセンター建設からさかのぼる2001年10月、国立スポーツ科学センター（JISS）が開設された。オリンピックシドニー大会から1年後に発表された、当時の文部科学省の「スポーツ振興基本計画」では、地域スポーツ、国際競技力、生涯スポーツの3つを柱とした。

国際競技力という点で、アトランタでのメダル獲得率17%を、早期に35%にまで倍増させることを目指して同時期に竣工したこの

ナショナルトレーニングセンター NTC

- 屋内トレーニングセンター
- 屋内テニスコート
- 陸上トレーニング場
- アスリートヴィレッジ

- ボクシング ●ウエイトリフティング
- レスリング ●柔道 ●卓球 ●体操
- ハンドボール ●バスケットボール
- バレーボール ●バドミントン

国立スポーツ科学センター JISS

- トータルスポーツクリニック事業
- スポーツ医・科学研究事業
- スポーツ診療事業
- スポーツ情報サービス事業

- 競泳 ●シンクロナイズドスイミング
- ボート/カヌー ●フェンシング
- 射撃 ●新体操(予定) ●トランポリン(予定)



▲JISS地下1階 50m競泳プール

JISSに、国際競技力向上に合わせる、トップレベル競技者の競技力向上・育成の中枢としての役割を担い、スポーツを科学・医学・情報の三領域から捉えて研究を行う。前ページの対談で笠原センター長が説明している。NTCが完成しトレーニング施設としてその役割を担う現在、それぞれの施設のカラールを活かし、また相互に情報を交換することで一体感とスピードを備えた日本独自の競技パフォーマンスが期待できる。

NTCの25メートルプールは全競技者がトレーニング、リハビリ、リラクゼーションなどに使用できる汎用性の高いプール。対してJISSにはオープン当初から、専門的かつ高度な競泳練習に対応した、水深調整が可能な50メートルプール(可動床システムの装備)と、4メートルの水深を誇るシンク口練習用プールが設置されている。

JISSのプールはトレーニング研究の進化を受け、近々改修を予定している。

大地の 目

日本独自のスポーツ科学 誕生に期待!



私が本誌のレポーターとしてはじめて取材に訪問した施設が、このナショナルトレーニングセンターに併設する国立スポーツ科学センターだった。当時のセンター長であった浅見俊雄氏にお話をうかがい、施設内を見学させていただいた時、我が国のスポーツ科学の発展に胸が高鳴ったことを覚えている。

あれから6年半の時が経ち、ナショナルトレーニングセンターが完成した。国内トップアスリート専用を用意された施設は、まさに満を持して建造された、英知の結晶であることが感じられた。

国際競技力「世界と戦う力を育てる」ということの意味を、この施設が語っているともいえるだろう。非の打ちどころのない、すばらしい施設である。

施設内を笠原センター長にご案内いただきながら話した中で、「この恵まれた環境は『温室』にもなりうる」というような会話もさせていた。笠原氏も大きくうなずかれていた。

充実したこの施設の中で、今後どのような取り組みがなされ、未知なる領域をどのように開拓するか、そこそが我が

国最高の技術を導入した目的の本質であるといえるだろう。

北京オリンピックでは日本近隣諸国の活躍もあった。中国はもとより韓国のパク・テファン選手(韓国競泳史上初の金メダリスト)など今後の世界大会の中で、ある意味では欧米よりも「手強い」といえるだろう。世界の水準はまちがいに急速に進歩している。

そうした中で、この施設の設備をアドバンテージとするのではなく、この施設に関わる選手、指導者、研究者の情熱を結集し、またどの国も到達していない新たなトレーニング方法を開拓していく。私は日本ならそれが可能だと思ふ。

次世代を担う選手の育成に向け、北区の学校にアスリートヴィレッジから通学する子どもたちもいると聞いた。こうした垣根の無い人と人の関わりの中で、スポーツ文化の底辺を拡大し、才能豊かな人材を発掘できればと思う。

ただ、これらすばらしい設備は補助的な役割でしかない。結局戦うのは人であり、感動を生むのも、それに共感するのにもまた人なのだから。



25m POOL

天理大学体育学部 総合体育館温水プール〈奈良県〉 2005竣工



POOL INFORMATION
 ・サイズ:25m×23.5m/9コース(2.5m/1コース)
 ・水深:1.35m~1.4m(最深部4.05m)
 ・材質:FRP+セラミックタイル

短水路
公認プール



25m POOL

東邦高等学校 屋内プール〈愛知県〉 2007竣工



POOL INFORMATION
 ・サイズ:25m×14m/7コース
 ・水深:1.4m 材質:FRP

公認短壁使用



25m POOL

中京女子大学 プール〈愛知県〉 2008竣工



POOL INFORMATION
 ・サイズ:25m×12.6m/6コース
 ・水深:1.5m 材質:FRP
 ・水中窓付

私立学校
競泳プール

選手育成、指導に
本格的な競泳プール
に
対応

▼可動床部

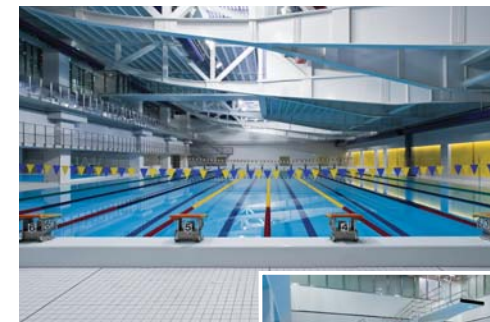


50m POOL

慶應義塾大学日吉キャンパス〈神奈川県〉 2008竣工

POOL INFORMATION

(50mプール)	(50m内可動床プール)	(飛込プール)
・サイズ:50m×25m	・サイズ:25m×16m	・サイズ:12.5m×12m
50m/8コース・25m/10コース	・使用水深:0.8m~2.0m	・水深:3.6m・4.5m
・水深:2.0m	・材質:FRP	・材質:FRP
・材質:FRP		



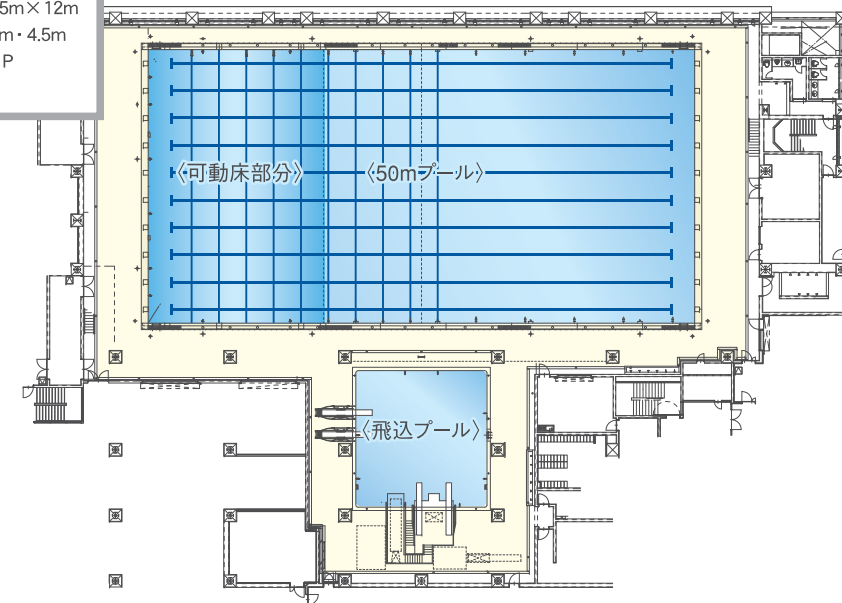
飛込プール▶

公認プールとは?

国際公認規格をクリアする精度
 (財)日本水泳連盟プール公認規則〈水泳競技の発達と水泳競技会の円滑かつ公正な運営を図るため、プールならびに付属設備の公認及び認定の基準とその手続きを定めることを目的とした規則〉において、同連盟が公式競技会または公認競技会に使用する競技場として適格と認めたプール。

短水路・
長水路兼用
公認プール

挑戦するスイマーに
高い技術で応える公認プール



03~08年 ヤマハ発動機(株)実績/国内公認プール/私立学校競泳プール

- | | | |
|--|---|---|
| <p>短水路公認プール</p> <ul style="list-style-type: none"> '05 新潟医療福祉大学〈新潟県〉 '05 天理大学体育学部 総合体育館温水プール〈奈良県〉 '06 松本市庄内屋内プール〈長野県〉 '06 尼崎スポーツの森〈兵庫県〉 '06 かつらぎ公園 町民プール〈和歌山県〉 | <p>長水路公認プール</p> <ul style="list-style-type: none"> '03 防衛大学校 競泳プール〈神奈川県〉 '03 岡山市東山プール〈岡山県〉 <p>短水路・長水路兼用公認プール</p> <ul style="list-style-type: none"> '05 清翔高等学校〈岐阜県〉 '08 慶應義塾大学 日吉キャンパスプール〈神奈川県〉 | <p>私立学校競泳プール</p> <ul style="list-style-type: none"> '05 日本大学鶴ヶ丘高等学校〈東京都〉 '05 工学院大学附属中学高等学校〈東京都〉 '05 清翔高等学校〈岐阜県〉 '05 京都女子中学校・京都女子高等学校〈京都府〉 '06 東海学園大学三好キャンパス〈愛知県〉 '07 法政大学中学高等学校〈東京都〉 '07 東邦高等学校〈愛知県〉 '08 日本大学櫻丘高等学校〈東京都〉 '08 学校法人 明星学園府中校〈東京都〉 '08 中京女子大学〈愛知県〉 |
|--|---|---|

ヤマハ発動機水泳部 実業団水泳大会にて奮闘



「第59回日本実業団水泳競技大会」が福井県敦賀市総合運動公園屋外プールにて、2008年8月2日、3日に開催され、全国350の事業所から1370人が参加し、日々の練習の成果を競い合いました。400mメドレーリレー、400mフリーリレーの企業対抗戦では、チームメイトと力を合わせて、また、個人戦では記録を目指して戦いました。



実業団チームの面々

弊社水泳部からは男子選手8名が参加部員の中には業務の関係で海外に派遣され、練習環境が整っていない中でも地道にトレーニングに励んでいる選手もあり、チームメイトとメールで情報交換をしながら励まし合っていました。創部5年目ながら強い結束力で結ばれた水泳部は、30歳以上50m平泳ぎで高橋大輔選手が8位と健闘、大きな成果を得ることができました。

各水泳競技会を協賛

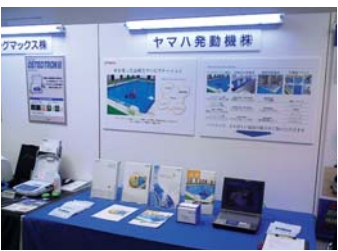
弊社が協賛する「とびうお杯第23回国少年少女水泳競技大会」が2008年8月2日、3日に開催されました。会場となった静岡県浜松市南区の江ノ島水泳場屋外プールでは、2日間の日程で大会新記録が10個も樹立されるなど、レベルの高いレースが繰り広げられました。



この大会は「フジヤマのトビウオ」としてその名を知られた日本水泳連盟名誉会長・古橋廣之進氏にちなんで設立された水泳大会で、23回目となる今年も実力派揃いの小学生スイマーが全国から集まりました。弊社はこれまでも北京オリンピック選考会競泳ジャパンオープン、日本学生選手権など、数々の大舞台を協賛会社としてバックアップしてきました。これからも水泳競技会を初め、選手などへの協力支援を行っていきます。

日本整形外科学会学術集會に出展

2008年7月4日、5日に開催された、「第34回日本整形外科学会スポーツ医学学術集會」にはじめて出展しました。東京千代田区の都市センターホテルを会場に開催されたこの学術集會には、会員と医師などが全国から集まり、シンポジウムやパネルディスカッション、講演などが開催されました。今回は、「水を使った治療とリハビリテーション」をテーマに、一次予防、健康増進、リハビリ、リラクゼーションなど、医療現場での事例をパネルとパソコンで紹介しました。



その知人、家族の方々265人が屋内50メートルプールに集結し、全員がインストラクターの指導で約40分間汗を流しました。施設では、50メートルプール完備のメリットを活かして記録更新も視野に入れ、今後も地域のみなさんと新たな挑戦を計画していきたいと考えています。

河合選手 北京パラリンピック で銀・銅メダル獲得

2008年9月6日から17日まで開催された北京パラリンピックでは、ブラインドスイマーの河合純一選手が50m自由形(S11)で銀、100mバタフライ(S11)で銅メダルを獲得しました。

50m自由形決勝タイムは27秒16。トップのエンハメッド選手(スペイン)より1秒34の遅れでしたが、予選タイムを上回る好成績を修めました。これで前回のアテネに続き、同種目で4大会連続のメダル獲得となります。

ブラインドスイマーが泳ぐ時には、合図を出すタッパーが水泳補助棒「タッチピングスティック」を使い、プールサイドにタッチするタイミングを知らせます。



河合純一さん(中央)と新居技術棟 玄関ロビーにて

弊社が開発・提供したタッチピングスティックは、タイムに大きな影響を与えるターンやゴール時においても選手とタッパーの橋渡しをし、北京パラリンピックで河合選手の活躍をサポートしました。大会後、河合選手はメダルと共に来社され、その使い心地や大会当日の様子についてお話しをされました。

尼崎スポーツの森情報

265人アクアビクスギネス認定

弊社が運営するスポーツ健康増進施設「尼崎スポーツの森」でギネスブック認定を目指し開催された、265人アクアビクス(英語名はアクアエアロビクス)が、イギリスのギネス・ワールド・レコーズ社で正式に世界記録として認定されました。11月には、認定証が同施設に届きました。2008年6月1日、施設開設2周年の創業祭メインイベントとして企画されたアクアエクササイズは、当時ノルウェーの247人が世界記録でした。



尼崎スポーツの森では250人を目標に、プールとトレーニングジムの会員約1千名に参加協力を呼びかけました。当日は会員と

アイススケートリンク 3年目のオープン

2008年10月1日、今年もメインプール棟にアイススケートリンクがオープンしました。通常営業の他にも各種スケート教室が定期的に開催され、アイスホッケーやアイスダンスなどを楽しむ人で賑わっています。

また毎月1回無料(通常料金/大人1200円)でスケートリンクを開放したり、1000台収容可能な無料駐車場を完備するなど、利用者へのサービスも充実しています。

リンクの貸切やアイスホッケーでの利用も可能。幅広い要望に対応しています。



2008年度広告



2008年北京五輪 日本競泳チーム監督

上野 広治 氏

Ueno Kouji

PROFILE

東京都出身。1982年日本大学文理学部体育学科卒業後、1995年(財)日本水泳連盟競泳委員、2003年同連盟評議員、2005年に理事を務め、2007年に常務理事に就任。
1989年から国際大会のコーチ、ヘッドコーチとしてジュニア選手を含む強化育成に活躍。アテネ五輪ではヘッドコーチ、2005年からは監督を務め、北京五輪でも日本競泳チームを率いた。日本代表の指導と共に、現在も日本大学豊山中・高等学校水泳部コーチと日本大学水泳部監督も務める。

Aqua Exercise Essay

水中運動核心論

presented by 宮下充正

Teaching 15

子どもに、望ましい『次』を目指す指導をしよう(その3)

うまく泳げるようになるための環境整備

泳ぐ環境の変化

50年前までは、川、池、湖、海など自然の水泳場で、日本のほとんどの子どもは泳ぎを習い、鍛錬した。そのため、足の立たないところ、流れのあるところ、波のあるところで泳ぐことに慣れていたし、それらの危険性を十分理解していた。そして、『たくましい』子どもとして育っていた。ところが、1950年ころから工業化の波は日本を覆い、自然の水泳場は汚染され、泳げなくなつた。そして、1964年の東京オリンピック後には、経済の発展とともにスイミングクラブが誕生し、子どもは室内温水プールで泳ぎを習うようになった。流れもなく、波もなく、暖かい水は、安全な水泳学習の場となつたが、子どもたちの『たくましさ』を身につける機会とはならなかつた。大げさに言えば、われわれは豊かさで引き換えに、子どもを『たくましく』育てる機会を失つたのである。

子どもを取り巻く環境の悪化

子どもがじょうぶに育つためには、社会、学校、家庭といった環境的要因が強く影響することは、すでに説明した。水泳がうまい子を育てるのも同じように、社会、学校、家庭などの環境が深くかかわっていることはいうまでもないだろう。子どもを取り巻く最近の環境を振り返ってみると、子どもを『たくましく』育てるのによい影響を与え



る話題は、ほとんど見られない。社会環境は金にまみれた事件が眼につくばかりであつた。
① 社会環境
他人の金をうまく利用して収入を上げる。あるいは、

取崩など不正な行為で収入を上げる。そして、現金自動支払機を重機で壊して強引に奪つてしまふ。ひ弱なホームレスを殺害して、なげなしの金を奪うなど、暴力で収入を上げるといった社会であつた。

② 学校環境

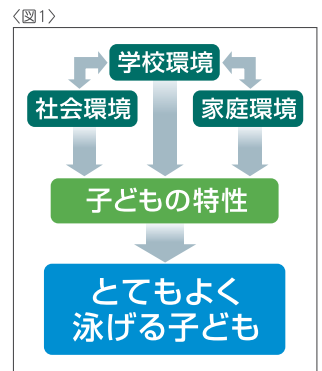
学校環境はどうだつたか。いじめによる自殺の多発、多くの高校で見られた大学受験のためには必須科目を未履修のまま卒業させる、うつ病や性犯罪に走る不適格な教員の増加などが眼についた。

③ 家庭環境

家庭環境はどうだつたか。ここにもよい話題はほとんどなかつた。特殊出生率の連続する低下による少子化の進行、親による子どもの虐待、多重債務による親の自己破産など、新聞やテレビのニュースを賑わせたのであつた。

とてもよく泳げる子どもの環境

では、『とてもよく泳げる子ども』を育成できる環境とは、どういふ条件が必要なのだろうか？(図1)ここで、『とてもよく泳げる』と表現したのは、オリンピックで活躍するような選手ばかりではなく、じょうずに泳げ、定期的に泳ぎを練習することによって、『たくましい』からだを身につけていく子どもの育成も含めたからである。



PROFILE

宮下 充正 (財)日本水泳連盟参与
東京大学名誉教授
「最近の主な著書」
「子どものスポーツと才能教育」02(大修館書店)
「子どもに体力をとりもどそう」07(杏林書院)
「競技志向と健康志向のスポーツ」科学'09(杏林書院)

子どもの特性は重要

これら3つの環境に恵まれていても、すべての子どもが『とてもよく泳げる』ようになれるとは限らない。子どもそれぞれに、泳ぐことに対して適性があるかどうかが決め手となる。子どもの特性としては、まず、じょうずになるう、速くなるうという向上心が強いこと、そして、辛抱強く練習に参加できること、さらに、水中での運動感覚がよく、しかも持久性を支える心臓機能がよいこと、加えて、競技会にむけてどのよう調整するとか、レースでどのようなペース配分をすべきかなど、理解(判断)力に優れていることが重要な特性となるのである。



こうした勝負に強い選手を育てられるかがシドニー以来の課題であるともいえます。
北島選手が大会の前半で勝つことは、競泳チームにはもちろん、日本のオリンピック選手全体にとっても大きいと思いますね。

彼のことでいうと、周りの人に彼を支えたいと感じさせる魅力があります。素直で素朴な彼の性格は他人に不快感を持たせない。みんなが応援し祝福してくれる。こうしたことは、水泳の技術とはまた別の事柄だし、そこまでのことを求めることが金メダルにつながるのだとすれば、それは強い選手をつくるということよりも、人間を育てるということなのかもしれませんね。

選手の努力に込める

北島選手には「水泳界の長島茂雄になれ」と言ってきました。これからも北島選手には期待していますが、ロンドンへ向けて他のエース育成も大きなポイントでしょう。ホームランバッターの前には塁をためる選手も必要ですからね。2009年すぐに結果を出せるたくましさ、そして2011年世界選手権での活躍、大会ばかりでなく合宿も含め少ないチャンスをもつにする力などが必要だと思います。同時に国際大会でしっかりと勝てる力。こうした選手の努力に我々スタッフもきっちり応える力を備えたいと思います。

そしてプール施設も。アメリカ、オマハの全米選手権のサブプールは、50メートルプールに25メートルがくっついたL字形形状でした。こうしたハードの工夫が、トレーニングのメニューとともに選手を支えることができるとすばらしいと思いますね。

選手の努力に 応える力でありたい

シドニーからアテネ、そして北京へと、日本水泳連盟では「センターポールに日の丸」という目標を持ち、特にアテネ開幕後は選手層

の厚さを意識したため、底辺の拡大を課題として取り組んできました。複数の候補者の存在は、選手だけではなくスタッフにも「戦い方」を学ぶ機会にもなりましたし、4月の選考会に結び付けるために、しっかりとした練習が必要となりました。

選考会の基準は、正直なところ「世界一厳しい選考基準」だったかなと今も思いますし、派遣標準記録の設定などもかなりハードで、内心いけるかどうかと思っていました笑。結果として31名中22名が決勝に進出できたことを見

「つねに『戦い』を意識させる環境」北京の前、昨年(08年)4月の選考会時点では「他の国に比べ」日本が出遅れていると感じていました。北京の会場が高速プールであることや、水着の問題などもあって、地盤沈下という日本の競泳界全体の気持ち沈んだ感がありましたね。個人としても、技術の遅れや、トレーニングの開発に課題を感じていましたので、この雰囲気在北京に向けて大きな壁でした。

「世界と戦う人を育てる」その「戦い方」という点で、北京大会の朝に決勝を行うという運営システムは、選手の明暗をはつきり分けました。疲労を回復させ決勝への力を貯えて翌日に臨めた選手は好記録を挙げ、また一方で予選と決勝の力の出し切り方も難しい点があつたと思います。

「高速プール」と言われましたが、それは2月の北京オープンで見た時にすでに感じていました。プールが大きく見えないというか、プールサイドの奥行きが無い、天井も特別高くない、照明も外光に近いなど、選手の視線から見て大きく見えないことは気持ちの面で大きいと思います。つまりは、泳ぎやすいんですね。こうしたこと、水着の件もあって、想定していた他国の選手に加え予想していない国の思わぬ躍進も多かったですね。特に中国の活躍は印象深いし、海外の合宿やコーチの招聘など上位を狙うために全ての面において熱心に取り組んでいました。

オリンピックの舞台、しかも各国の実力も僅差と言う局面で、エースの存在は重要で、その点で、やはり北島康介選手の存在は大きかったです。期待されて、期待に応える。その期待された結果を出せることが、いかに周りの選手たちに自信を持たせるかあらためて実感しました。

彼が2002年のアジア大会で世界記録を出した時、みんな「日本人でもできるんだ」と思つたはずですが、アテネの前はハンセン選手に記録を破られてチャレンジャーとして戦い勝つた。